

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次

Pages

➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	4
➤ 研究・事例紹介	9
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	12
➤ 会議・イベント案内	13
➤ 書籍等の紹介	13
➤ 会員募集中	14

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

2014 年秋の ARRN 活動のご案内(10 月 26 日～30 日、オーストリア・ウィーン)

今秋 10 月 27 日から 30 日まで、ARRN メンバーは、オーストリアの首都ウィーンにて開催される「第 6 回ヨーロッパ河川再生会議（ERRC2014）」に参加致します。この会議は、ヨーロッパの河川再生推進を目的に活動するヨーロッパ河川再生センター（ECRR:

<http://www.ecrr.org/>）等が主催し、会期中には、多様な主体による講演や分科会、イベントが催される他、欧州河川賞の最終選考も行われます。ARRN の参加にあたっては、昨年度に引き続き ARRN 事務局である CRRN（中国）が主体となり様々な企画・準備等が進められ、JRRN 事務局からも 3 名が出席します。

ウィーンで予定している ARRN 活動はいくつかありますが、本ページでは、その中でも特に大きな 2 つの活動についてご紹介致します。

【1】ERRC2014 での ARRN 講演

28 日午前、ERRC の公式サイドイベントにて、ARRN 会長である Ziping Liu 氏より、ARRN 参加各国の河川再生状況を織り交ぜた ARRN 活動紹介の講演が行われる予定です。欧州の河川関係者への ARRN 広報の絶好の機会となるため、ARRN 運営メンバーである日中韓で協力して発表に向けた準備中です。

【2】第 11 回 ARRN 国際フォーラム

29 日午後、第 11 回目 ARRN 主催『水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』が ECRR と ARRN の技術交流会議の一環で開催されます。

ARRN 国際フォーラムは、参加国それぞれの水辺・流域再生に関する最新情報や課題等の発表を通じ、技術の共有・向上を図ることを目的に実施しているものですが、今回はさらに、欧州とアジアの継続的な技術

交流の第一歩を固めることも目的としています。

会議前半では、ARRN 参加国と欧州代表が各国・各地域における「河川再生の状況」と「河川再生におけるネットワークの役割」について発表を行い、会議後半では、前半の発表内容も踏まえ、今後の ECRR と ARRN の具体的な交流プログラムについて議論が行われる予定です。

今回ご紹介した以外の活動も含め、後日、ニュースレターやホームページにて活動報告を紹介致します。

オーストリア・ウィーンでの ARRN 活動予定

- 10 月 26 日（日）
夜：ERRC 主催関係者交流会
- 10 月 27 日（月）
午前：ERRC 開会式・基調講演
午後：第 9 回 ARRN 運営会議
- 10 月 28 日（火）
午前：ARRN 講演
午後：ERRC 分科会、欧州河川賞発表会
- 10 月 29 日（水）
午前：ERRC 分科会
午後：第 11 回 ARRN 国際フォーラム
- 10 月 30 日（木）
終日：ERRC 現地視察行事



※「第 6 回ヨーロッパ河川再生会議（ERRC2014）」

→<http://www.errc2014.eu/>

(JRRN 事務局・小野寺翔)

「小さな自然再生」事例集制作プロジェクト進捗報告 ～第2回事例集編集委員会(9/18)開催

JRRN では、市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取組める「小さな自然再生」に関わる事例集の制作を、編集委員会を立ち上げて協働で進めており、9月の活動を簡単にご報告させていただきます。

9月の活動では、各委員より事例原稿の一次案を提出していただき、下記のとおり第2回編集委員会(9/18)にて事例集の具体的な内容や、11月に開催予定の座談会の企画についての協議を行いました。

■日時：2014年9月18日(木) 18:00～20:00

■場所：首都大学東京 南大沢キャンパス 講義室

■議事：

- (1) 事例紹介原稿案
- (2) 事例集の全体構成 及び 執筆分担
- (3) 座談会企画
- (4) 今後の作業スケジュール
- (5) その他



【1】事例集の全体構成

第2回編集委員会の協議結果及びその後の調整により、事例集の全体構成は概ね以下のとおりを予定しています。

「小さな自然再生」事例集 全体構成(案)

1. 序論(「小さな自然再生」の理念)
2. 留意点(「小さな自然再生」を進めるに当たっての基本事項)
3. 事例紹介(16事例を予定)
4. 座談会

巻末1. 編集協力者紹介

巻末2. 事例の地図検索方法紹介(AQMAP紹介)

巻末3. 各事例の位置図・連絡先

巻末4. 参考図書

巻末5. 海外事例(概要)

※項目名や内容等は今後変更する可能性があります。

【2】「小さな自然再生」座談会

座談会は、「小さな自然再生」に関わる全国での取り組みの現状と課題を踏まえ、関係省庁の施策との共通項(関連性)を見出し、身近な河川・水辺での自然再生活動への市民参加の更なる推進に向けた方策を導き出すことを趣旨として企画しています。

編集委員会での協議では、「小さな自然再生」の主な対象が中小河川であり、国土交通省の所管河川とは差異があることから、国土交通省からは地方自治体の河川における取り組みとの関わりの観点から意見をいただけるご担当者に、また、環境省では自然再生基本方針の見直しに向けて「小さな自然再生」に関わる議論も進められているため、施策への反映の観点から意見をいただけるご担当者に出席していただければとのご意見がありました。また、今回はスケジュールの都合から見送ることになりましたが、率直な意見交換となるため、顔を出さない(立場を明かさない)座談会や、現場キーパーソンによる座談会を先に収録し、その内容に対し有識者が座談会を行う二本立の座談会など、次年度以降の活動につながる面白い意見もありました。

座談会は、JRRN 会員限定公開行事(事前申込みで傍聴可とする)とする予定ですが、詳細が決定後に改めてご案内させていただきます。

「小さな自然再生」座談会 企画(案)

■時期：11月中旬～下旬

■場所：(公財)リバーフロント研究所 会議室

■出席者：

(座長) 玉井信行 東京大学名誉教授

有識者

国土交通省関係者

環境省関係者

編集委員会委員 数名

※日程調整の状況より、変更する可能性があります。

■備考：JRRN 会員限定公開行事の予定

年末には素晴らしい事例集を皆様にお届けできるよう、編集委員及び事務局一同頑張っております。本活動の進捗は、引き続き本誌でご報告させていただきますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。なお、本活動は(公財)河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

国内外における河川再生活動の受賞ニュース速報 (いい川 WS / 国際河川賞/ 豪州河川賞)

いい川・いい川づくり実行委員会が主催する「第 7 回いい川・いい川づくりワークショップ」が 2014 年 9 月 20 日 (土) ~ 21 日 (日) に東京にて開催され、「旭川流域ネットワーク (AR-NET)」が本年のグランプリを受賞しました。

また海外では、オーストラリアに本部を置く国際河川財団(International RiverFoundation)より、世界的に優れた河川再生の取り組みを表彰する国際河川賞(International Riverprize)としてライン川 (ICPR : International Commission for the Protection of

the Rhine) が、オーストラリア国内の優れた河川再生活動に授与される豪州河川大賞(National Riverprize)に Eyre 湖流域 (Lake Eyre Basin Partnership) が選ばれました。

JRRN では、日本国内の素晴らしい取り組みを海外に紹介しながら、将来、日本の河川が国際河川賞に輝くことを一つの目標に、国内外関係団体との更なる連携強化に努め、その成果を皆様にご紹介してまいります。

(JRRN 事務局・和田彰)

第 7 回いい川・いい川づくりワークショップ (2014 年 9 月 20-21 日): 旭川流域ネットワーク

「旭川流域ネットワーク (AR-NET)」は、140 年計画で「源流の碑」をリヤカーで運びながら流域の人と心をつなぐ、地道かつ壮大な流域活動を展開しており、本ワークショップに参加し 17 年目にして初のグランプリ「賞名: 川と人との結びつきや人の思いがあってこそ教科書に載ったで賞」に輝きました。

更に、AR-NET は、本年より新設された『いいネットワーク・いい連携賞』及び『いいパフォーマンス賞』も受賞し、見事 3 冠を獲得です。

■ 第 7 回受賞結果一覧:

http://www.mizukan.or.jp/kawanohi/7th_iikawa_ws/7th%20result.pdf



国際河川賞 2014 (2014 年 9 月 16 日発表): 欧州・ライン川

欧州 6 カ国を流れる国際河川・ライン川で活動を展開する International Commission for the Protection of the Rhine (ICPR) が本年の国際河川賞を受賞し、昨年に創設されたヨーロッパ河川賞に続く 2 冠達成となりました。

1986 年の水質事故はライン川生態系に甚大な打撃を及ぼしましたが、その後の流域全体での河川再生の取り組み、特に下水道施設の整備により水質が大幅に改善し、生息魚類も水質事故前のレベルに回復したことが評価されました。

■ 詳細 (英語):

<http://riverfoundation.org.au/emailmarketer/display.php?M=29870&C=9e26ae8d3442f4609654610a0fb6a530&S=157&L=43&N=120>



オーストラリア河川大賞 2014 (2014 年 9 月 16 日発表): Eyre 湖流域

本年のオーストラリア国内の河川再生大賞には、オーストラリア南部の Eyre 湖流域で活動する Lake Eyre Basin Partnership が選ばれました。

広範な Eyre 湖流域において、市民と行政を繋ぐ実施体制を整備し、20 年以上に渡り、パートナーシップに基づく環境保全活動を展開したことを評価されての受賞となりました。

■ 詳細 (英語):

<http://riverfoundation.org.au/emailmarketer/display.php?M=1132&C=3e963ad47959dcf99f3191583b952c60&S=156&L=2&N=119>





川系男子の『川と人』めぐり No. 28～大岡川～

坂本貴啓（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ）

『川と人』めぐり 研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしょうがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

♪夕焼け小焼けの 赤とんぼ
負われて見たのは いつの日か
（唱歌『赤とんぼ』 作詞：三木露風作曲：山田耕筰）



図 1 大岡川流域（神奈川県 大岡川水系河川整備基本方針 流域図をもとに加筆作成）

表 1 行程

番号	立ち寄り地点	みどころ	時刻
0	港南台駅	集合	10:00集合
1	円海山	源流域	10:40-12:00
2	大岡川分水路大岡川分派点	暗渠放水路中間地点	12:55-13:12
3	大岡川分水路河口付近(屏風ヶ浦橋)	暗渠放水路終着地点	13:19-13:30
4	大岡川分水路日野川分派点	暗渠放水路起点	13:40-14:15
5	大岡川・日野川合流点	親水空間	14:20-15:10
6	弘明寺付近(潮止付近)	親水空間、潮止、屋根付き橋と商店街	15:20-15:40
7	大岡川・中村川分派点(蒔田公園)	分派点	15:45-16:05
8	掘割川・中村川分派点	分派点、山を切り抜いて放水路	16:10-16:20
9	桜橋付近	水辺再開発事業	16:25-16:40
10	花鳥風月研究室(桜木町駅付近)	よこはまかわを考える会の拠点	17:00-18:15

1. 謎めいた都市河川

2014 年 9 月 27 日、大岡川を巡った。前日（26 日）によこはまかわを考える会の第 357 回の定例研究会で講演をする機会があり、会の方々に大岡川をご案内いただいた。研究室を卒業し、横浜に住んでいる後輩も駆けつけ、7 名で巡った。

大岡川は円海山に源を発し、横浜市の磯子区、南区を貫流し、桜木町付近で東京湾に注ぐ河川である。（図 1）流路延長 14km、流域面積 27.25 km²で、流域

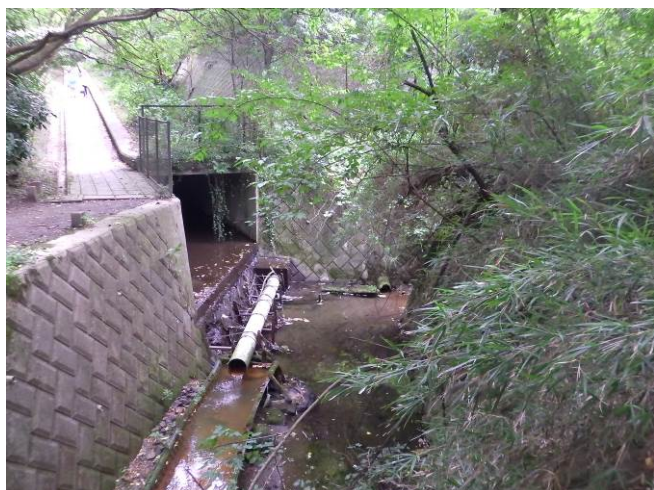


図2 源流域の大岡川の様子



図4 大岡川分水路（河口付近 終点）



図3 大岡川分水路（中間地点）



図5 大岡川分水路（起点）

の土地利用のほとんどは宅地であり、横浜の市街地を流れるいわゆる都市河川である。都市河川である大岡川周辺は人口密集地で治水重要性も高く、人の生命と財産が集中している。土地に余裕がないため、雨をどう流すかが治水上重要になってくる。そんな川を管理する上で一番重要なのは洪水対策でいかにして洪水を安全に流下させるかであり、水系には様々な治水上の工夫がされている。都市河川ならではの謎めいた川の構造に着目しながら川巡りを行った。

2. 源流域

最初に大岡川の源流の氷取沢市民の森を歩いた。高台からは桜木町のランドマークタワーが見え、大岡川の河口がそこに達していることが分かる。山の中の細道を歩く。起伏がピークに達した地点から下り始めると、徐々に水が染み出した沢が表れ始め、あるところから大きな水たまりとなり、幼い大岡川が姿をみせる。川底にはアブラハヤと思われる魚影も見える。水面にはギンヤンマやアカトンボが飛び交う。ある地点まで来ると川の流れは高速道路の高架の下に差し掛かる。パイプや暗渠を通過して川に合流してくる水に若干、鉄分を含んだ赤水が発生している（図2）。おそらく、高速建設時に鉄分の多い水

脈を掘り当てたか、高速の構造物の金属部分から伝ってくるものなのか2通り考えられる。また、高速道路の建設の関係で、排水を処理するための調節池が設けられており、暗渠なども合わせると源流域とはいえ、都市の川は複雑な様相をみせている。

3. 大岡川分水路

次に大岡川分水路を日野川分派点（起点）と大岡川分派点（中間点）と屏風ヶ浦橋の河口付近のところから見学した（図3～図5）。

大岡川は昭和36年に梅雨前線に伴う豪雨と昭和41年の台風に伴う豪雨による氾濫を経験しており、住宅街に大きな被害をもたらした。そこで洪水調節の目玉として、新たに放水路を掘って大岡川分水路の計画に着手した。大岡川分水路は大岡川支流の日野川を起点に分派し、大岡川の地下を通り、海へと流れる。大雨の際には大岡川本川の下流側の水門を閉め、全水量を放水路に流すことができ、下流への負荷を抑えている。最大で200m³/sの洪水調節能力をもつ。住宅街の川の中に大きな円形をした暗渠管があり、巨大な地下宮殿への入り口のようにもみえる。分派点の近くを散歩している住民の人もいたが、果たして何人の人がこの構造物の機能を真に理解し



図6 大岡川とビル群



図7 大岡川と中村川分派点

ているだろうか。特に分水路の中間地点の大岡川と交わる場所は複雑な構造をしていて、見る者を圧倒させてくれる。大雨が降った際にどのようにこの構造物が機能を発揮しているのか川系男子としては気になるところである。

4. 日野川合流点

次に大岡川と日野川の合流点を歩いた。近くには神社がある。大岡川は掘り込み河道となっており、道路と河床の高低差が3m以上ある。合流点より上流の箇所は高低差により、水辺へのアクセスが困難な区間が多かったがこの周辺は川への降り口があり、さらに川沿いに遊歩道も整備されている。磯さん曰く、ここはよこはまかわを考える会が最初の時期に一生懸命川掃除をした箇所で、当時はゴミをはじめとし、自転車すらも落ちていたという。その現状を憂いた会の創始者でもあり、横浜市役所の職員でもあった故森清和さんらとともにこの場所をきれいにしていたという。市民が川へ関心を向けはじめると、もっといい水辺を望む声が高まり、神奈川県の親水空間の整備もはじまり、現在のような水辺空間が出来上がった(図6)。今ではハグロトンボがそこら中に飛んでいる。当初から会のメンバーとして、



図8 中村川と堀割川分派点

また横浜市の職員として奔走していた磯さんにとっても相当な思い出のある水辺のようだ。

川の中から空を見上げると高い建物。早期に都市空間の中に包括的に水辺空間をつくりだした横浜の水辺は都市河川の水辺再生の先駆者的存在といえる。

5. 数々の分派川

下流にいくと大岡川と中村川の分派点がある(図7)。分派点付近は両河川の分派の方向には高速道路が伸びていて、川はその下を通っている。日本橋川に代表されるように、首都圏における高速道路建設は用地買収をできるだけ少なくするために公共用地である川の上に沿って建設が進んだ時代がある。これにより川は常に日陰になり、高速道路高架などの構造物の連続でどこか無機質な空間へと変化してしまった。大岡川のこの場所にも同じことがいえる。

この大岡川と中村川の分派点だが、この両河川に挟まれる釣り鐘状の土地は江戸時代は入江だった場所で、埋め立て地である。大岡川の河口はこの分派点であったが、埋め立てが進むにつれて西側と東側に流路を延長し、現在のような分派川をつくりあげた。また、分派後の中村川のほうからはさらなる分派川である堀割川があり、明治時代に山を切り抜いて流路を建設している(図8)。大岡川分水路も含めると1水系に4つの河口があることになる。多分派の都市河川という性質では広島市内の太田川水系にも構造がよく似ている。大岡川の4つの河口(分派川)にそれぞれの改修史があり、非常に興味深い。

6. 川と道の交差点(弘明寺商店街付近)

分派点からさらに大岡川を下る。河口から3kmの弘明寺付近は大岡川の潮止付近であり、汽水域はこれより下流となる。付近には汽水域に多く生息するボラが水面を跳ねる姿もよくみられた。弘明寺付近には弘明寺商店街が大岡川と交差しており、アーケードは橋の上にもかかっている。(図9) また、橋は2線に区切られていて人や車の渡河用の道とちょっと腰を休めるベンチスペースがある。ベンチスパー



図9 大岡川と弘明寺商店街



図10 大岡川と桜並木

スには川の方を向いて多くの人が座っておしゃべりをする憩いの場になっている。こんなおもしろい空間は今まで見たことがない。よこはまかわを考える会や横浜市内の小学校の先生たちによって30年以上続いている『横浜の水辺と緑を考える子ども会議』が大岡小学校を中心に開催する時は校舎を飛び出し、この商店街の屋根付き橋の上で車座になり、通行人にみてもらいながら模造紙を描いたりするそうだ。川と道の交差点に夢を描く子供たちのいるこの空間は素晴らしい空間である。

7. 大岡川と桜並木

弘明寺、黄金町、日ノ出町にかけて大岡川沿いには桜並木が連続している。4月には桜まつりがおこなわれ、川沿いは多くの人でにぎわう。川の中ではカヌー高いが行われ、河口の桜木町から川をさかのぼり、川の中から桜を楽しむこともできる。最近ではサップと呼ばれる立ちこぎカヌーが流行っていて、川の中で遊んでいるのを見ることもできる（図10）。大岡川沿いでこのような乗り物で遊ぶためには、事前に神奈川県に舟の係留許可を申請することで係留場に下りる鍵が借りることができ、いつでも利用することができる。人が楽しめる利活用の工夫がこの

川沿いには数多くある。最近では神奈川県による大岡川沿いに水辺再開発が進められている区間もあり、包括占用などの制度を利用しさらなる利活用の推進に努めようとする動きもあるようで、大岡川の水辺利用は常に時代の先を行っている。

8. 花鳥風月のまちづくり

今回大岡川をみることで横浜市内の都市河川について理解を深めることができた。大都会横浜であっても都市に憩いの空間やハグロトンボの住む空間をつくりだせたのは横浜の川づくりの根底に『花鳥風月のまちづくり』という考え方があったからである。

当時の横浜市は行政機構内に『花鳥風月研究室』というものを設置した。横浜市エコシティ環境報告書の副題を花鳥風月のまちづくりと名付け、森清和さんをはじめとする当時の職員の人たちはいかにして大都会に生き物が住める空間を作り出し、子供たちが外を駆け回るような空間を作り出すか奔走し、その成果が今の横浜の川づくりに現れている。都市でもいい川をつくるのは可能だというメッセージは全国の都市河川に希望と自信を与えただろう。機構改組により花鳥風月研究室はなくなったが、桜木町にあるよこはまかわを考える会の事務所には『花鳥風月研究室』と記されていて、花鳥風月のまちづくりの考え方は今でもきちんと引き継がれている。花鳥風月のまちづくりに奔走した横浜のすべての人々に敬意を表したい。

最後に森清和さんの最期の手紙を紹介して大岡川めぐりの占めにしたい。

水辺の風景と心の再生

日本は花鳥風月の保護・保全・修復技術の先進国。余命幾ばくもない今、思い残すのは、それを生かした豊かな日本の復権。私の水辺候補を挙げると、釧路湿原、中津川の盛岡、三陸の気仙川、仙台の広瀬川、見沼田んぼ、白魚の隅田川と玉のごとき多摩川、静岡大田川の田園風景、磐田の桶ヶ谷沼、三重の宮川、近江八幡、琵琶湖の芦原、新潟の通船川、千曲川スケッチ、愛知の矢作川、郡上八幡、京の川、コウノトリの円山川、旭川と百間川、錦帯橋と錦川、徳島の海部川、川尻、水前寺、五ヶ瀬川、柳川、石橋の甲突川や中島川。

そして私の都市河川の原点の大岡川、花が吹雪き、螢が飛び交い、彼岸花が染める里の川、水辺林に覆われた森の川、ダムや放流に頼らない川……。

後はみんなで考えましょう！

【筆者について】

坂本 貴啓（さかもと たかあき）

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC（青少年博物学会）、大学時代ではJOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢めている。筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りテレビに映る川がどこの川か当てること。

水辺からのメッセージ No.65

岡村幸二 (JRRN 会員)

カフェで最上の時を：
コーヒーショップは内からの見晴らし場であり外からの風景でもある



撮影：2014 年 9 月（富山県・富山市湊入舟町）

◆富岩運河で富山県は大きく発展

治水問題に長く苦しめられた富山県。東側に大きく迂回していた神通川を、明治 34 年から大正 11 年頃までに現河道に付け替えて、旧河道を含む都市計画決定を行い、富岩運河の新設、工場の誘致、旧河道の新市街地整備、東岩瀬港の整備などを実施して、県は大きく発展しました。

その後使われなくなった運河を、まちなかの貴重な水辺として甦らせ、親水公園に生まれ変わりました。その中でもスターバックスカフェは公園に魅力的な風景を創出しています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

子どもの視点で水辺づくりを ～子どもを育む都市・水辺環境研究～

高橋裕美（株式会社 建設技術研究所 環境部・JRRN 会員）

ガサガサ、飛び込み、魚釣り、川流れ、笹舟競争…。みなさんは幼い頃、水辺でどのような遊びをしていましたか？

今、大人になったみなさんは、子どもたちと水辺で遊んでいますか？そして、身近に遊べる、遊びたくなる水辺はありますか？

いつからか、特に都市ではそのような水辺が減って来ているように感じている方も少なくはないのでは、と思います。



写真：大人が見守る中、子どもたちが遊ぶ水辺

2007 年、経済開発協力寄稿（OECD）加盟 25 カ国を対象に行われた 15 歳の意識調査において、「孤独を感じる」子どもの割合を見ると、日本が最も大きく、その値は 29.8%にのびります。日本に続くアイスランドが 10.3%、フランスが 6.4%、イギリスが 5.4%であることから見ても、日本は突出して孤独と感じる子どもが多いことが分かります。その原因の一つとして、子どもが外で遊べる環境が激減し、自然体験や水辺で遊ぶ体験も大幅に減少していることによる子どもの心身の成長への影響が関係していると感じるのは私だけでしょうか？

これまでの社会資本整備に関わる計画や設計は機能や強度、構造、安全性等が優先され、「大人の」視点で行われてきたことから、子どもが自然環境、水辺から遠ざけられてきたように思います。

当社では、上記のような疑問や実感を持つ社員が集まり、子どもの視点での水辺づくりに関する研究を立ち上げました。当社のシンクタンク組織である国土文化研究所（JRRN の事務局を共同運営）の研究開発の一つとして、今年から 3 ヶ年に渡って、研究を進めていく予定です。

そうして研究に携わっているメンバーが、他の社員

に「こういう研究に取り組み始めました。」「子どもが集まる川を知っていますか？」と投げかけているうちに、複数の部署から少しずつ周りを巻き込み、研究に関わるメンバーが当初から増えているのも興味深いところです。

夏になると残念ながら水難事故のニュースを耳にする機会が増えます。水辺と危険は切り離すことができません。しかし、水辺でのハラハラやドキドキは子どもたちを成長させるのも事実です。事故防止のためには多くの取組みが実施されており、多くの研究やリーフレットを拝見しています。JRRN 会員の方々も多く関わっていらっしゃると思いますが、そういったこれまでの取組みも参考にしたいと考えています。そして、とりまとめた成果を社会に、皆様に還元できればと考えています。



写真：花と川は似合うね、という言葉聞いた水辺

多様な植物や魚が生育・生息し、川には流れがあり、変化に富む水辺では驚きやリラックス、発見など日常とは違う、様々な心理的な動きもあります。

近頃、研究でもプライベートでもいろいろな水辺を訪れることが増えています。バイカモの咲き誇る川辺を歩いていると、水の中に入っていた男の子が、「花と川は似合うね」と言いながらはしゃいでいました。なぜかとても印象に残っています。人々の生活を支える社会資本整備を行う技術者として、そのような子どもの豊かな感性を育む水辺を計画・設計して行きたいものです。

「子どもだった」大人たちが子どもを観察したり、子どもの頃を思い出したりしながら研究を進めており、試行錯誤の日々ですが、「子どもの視点」を取り入れた、笑顔あふれる、賑やかな水辺づくりがあたり前になるような研究成果を目指し、研究を進めてまいります。

遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議 ～第2回「遠賀堀川をこうしたい！」開催報告～

筑波大学白川（直）研究室（JRRN 団体会員） 遠賀堀川プロジェクトチーム

1. 訪問概要と日程

2014年9月5日（金）～6日（土）の2日間、筑波大学の学生4名が福岡県を訪問しました。5日は遠賀堀川の10か所で水深・川幅・水面幅・流速を計測しました。6日は第2回「遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議—遠賀堀川をこうしたい！」の運営を行いました。

2. 河川調査

ワークショップ開催前日、プロジェクトチームで遠賀堀川の水深や川幅の計測を行いました。今回は前回の訪問時の続きで、折尾駅前より金山川の合流点までの計測を行いました。前回と今回の計2回の結果を用いて再度水理計算を行っていきます。

3. ワークショップ内容

（1）第2回ワークショップの目標

前回のワークショップで抽出した問題点を基に、遠賀堀川および遠賀堀川周辺を具体的にどのようにしたいかを話し合い意見を出し合うことを目標としました。当日は「駅前広場・川沿い利用班」「水量・水源班」「フットパス班」の3つの班に分かれて討論を行いました。

（2）プログラム・内容

今回のワークショップの司会は、筑波大学の森本健太が務めました。表1に第2回ワークショップのプログラムを示します。

開会にあたり、まず「堀川再生の会・五平太」の中村恭子さんが主催者として挨拶をしました。また、北九州市立大学の中村寛樹先生からもご挨拶いただきました。

表1 ワークショッププログラム

1	あいさつ
2	遠賀堀川の歴史と現状
3	第1回の振り返りと事業説明
4	学生提案
5	班別議論
6	ワークショップのまとめ



写真1 主催者挨拶（中村恭子）

続いて、「遠賀堀川の歴史と現状」では遠賀堀川誕生の目的と経緯および現在の遠賀堀川について、スライドを用いて北九大の学生が簡単に説明しました。これは、前回のワークショップ参加者の皆様から、遠賀堀川の歴史と現状を知りたいという意見をいただいたためです。

「第1回の振り返りと事業説明」では第1回のワークショップで行ったことおよび出た意見をまとめ・振り返り、北九州市折尾総合整備事務所の方々に事業内容に関する疑問点と質問した結果を簡単に説明しました。行政の方から回答をいただいたことで理解が深まり、班別議論では多くの具体的な意見が出ました。

「学生提案」では「駅前広場」「川沿い利用」「水量」「水源」「フットパス」の5つの観点から学生が事例を用いながら発表をしました。それぞれの学生が工夫したプレゼンを行い、5つのテーマのおもしろさが住民の方に伝わったと思います。

「班別議論」では「駅前広場・川沿い利用班」「水量・水源班」「フットパス班」の3つの班に分かれて、それぞれのテーマで討論を行いました。「駅前広場・川沿い利用班」では、折尾駅前および遠賀堀川周辺の利用方法のアイディアを付箋に書き、地図上に示しました。

「水量・水源班」は、水量の少ない遠賀堀川の水を増やすために新しい水源を考えました。「フットパス班」は、フットパスのメリットの説明を聞いたり事例のビ



デオを見て、遠賀堀川でどのように適用できるかを考えました。どの班でもさまざまな奇抜な意見が多く出ていて、遠賀堀川に対する強い気持ちを感じ取ることができました。

まとめとして、前途の 3 つの班の代表が参加者全体に対して討論の内容を発表しました。最後に総括として筑波大学の白川直樹先生と、北九州市立大学の内田晃先生よりコメントをいただきました。内田先生は今まで出た案を活用することで、遠賀堀川の可能性をより開けると思うとのコメントをいただきました。今回出た意見・課題を基に第 3 回(10/5(日))以降のワークショップを進めていきたいと思います。



写真3 班別議論の様子

（筑波大学白川（直）研究室 遠賀堀川プロジェクト
チーム：坂本貴啓，田中総大，鴨志田穂高，森本健太，
川合君穂，中前千佳）

遠賀堀川をもう少し知りたい人は・・・



遠賀堀川と周辺の紹介
 (「堀川運河 12km の旅物語」より引用)



JRRN 編集『川を活かす・守る～河川再生事例集』
(2013年2月発刊, P32-35)

遠賀堀川～子ども達が描く夢の「宝川」 目指して
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/74>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「ゲリラ豪雨展」&「雨といきもの展」最新スケジュール案内

JRRN も活動に参加する「水の巡回展ネットワーク (jawanet)」より、10 月に開催される二つの巡回企画展のご案内です。

【ゲリラ豪雨展】

- ◆場 所： 北上川学習交流館あいばーと (岩手)
- ◆開催期間： 平成 26 年 10 月 12 日 (日)～11 月 16 日 (日)
- ◆主 催： 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
- ◆共 催： 一般社団法人 東北地域づくり協会

【雨といきもの展】

- ◆場 所： 荒川知水資料館(Amoa) (東京)
- ◆開催期間： 平成 26 年 10 月 7 日 (火)～11 月 14 日 (金)
- ◆主 催： 国土交通省荒川下流河川事務所

※詳細は右記参照：<http://www.a-rr.net/jp/jawanet/>



【JRRN 会員からの提供情報】

■第 12 回 川の自然再生セミナー (10 月 28 日)

公益財団法人リバーフロント研究所から「第 12 回 川の自然再生セミナー」のご案内です。

本年のセミナーでは、「地域との連携」をテーマに、全国で実施されている特徴ある取組をご紹介します。

- ◆日時：2014 年 10 月 28 日 (火) 13:00～17:20
- ◆場所：月島社会教育会館 (東京都中央区)
- ◆主催：堀川再生の会・五平太
- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1815.html>



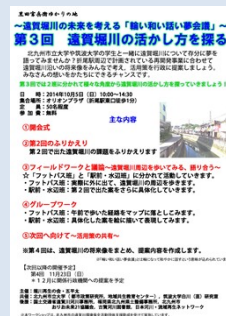
【JRRN 会員からの提供情報】

■遠賀堀川の未来を考える『輪い和い話し夢会議』 第 3 回 遠賀堀川の活かし方を探る (10 月 5 日)

筑波大学白川 (直) 研究室『川と人』ゼミより第 3 回・遠賀堀川再生ワークショップ (JRRN 後援) のご案内です。

- ◆日時：2014 年 10 月 5 日 (日) 10:00～14:30
- ◆集合場所：オリオンプラザ (福岡県北九州市)
- ◆主催：堀川再生の会・五平太
- ◆共催：北九州市立大学 (都市政策研究所, 地域共生教育センター), 筑波大学白川 (直) 研究室
- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1830.html>



【海外からの提供情報】

■ECRR (ヨーロッパ河川再生センター) のホームページがリニューアル

ECRR (欧州河川再生センター) のホームページがリニューアルしました。

ECRR 紹介、ECRR が目指す河川再生とは、また欧州の河川再生情報を集約した「RiverWiki」など、ヨーロッパの河川再生に関わる充実した情報をご覧いただけます。

- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1824.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2014 年 9 月号) を RRC 事務局より送付頂きました。

本号では、RRC 主催の Eden 川及び Derwent 川視察行事報告、RRC 年次講演会 2015 論文募集案内、英国環境省による自然環境の機能を保全した洪水軽減の取組みなどが紹介されています。

- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1821.html>



(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■セミナー「流域一貫の総合流水管理に向けて」
○日時：2014 年 10 月 3 日 (金) 10:30 - 18:10
○主催：京都大学防災研究所
○場所：京都大学宇治キャンパス (京都府宇治市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1995.html>

■第 41 回 利根川研修会 利根川上流域を巡る
○日時：2014 年 10 月 3 日 (金) ~ 5 日 (日)
○主催：一般社団法人知水文化研究会
○場所：利根川上流域
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1971.html>

■第 23 回全国川サミット in 香取
○日時：2014 年 10 月 10 日 (金) - 11 日 (日)
○主催：第 23 回全国川サミット in 香取実行委員会
○場所：水の郷さわら (千葉県香取市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1997.html>

■琵琶湖外来魚駆除大会 in 琵琶湖
○日時：2014 年 10 月 12 日 (日) 10:00~15:00
○主催：琵琶湖を戻す会
○場所：滋賀県草津市津田江 1 北湖岸緑地
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1991.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2014.9.28-10.2 (ハンブルク/ドイツ) 11th International Conference on Hydrosience & Engineering
- 2014.10.27-29 (ウィーン/オーストリア) European River Restoration Conf. 2014
- 2014.10.30-31 (バンコク/タイ) Int. Sympo. on Environmental Flow and Water Resources Management
- 2014.11.19-21 (マニラ/フィリピン) 2nd Philippine International River Summit
- 2015.3.6-8 (ダッカ/バングラ) 5th Int. Conf. on Water and Flood Management
- 2015.4.12-17 (Daegu/韓国) 7th World Water Forum
- 2015.6.28-7.3 (ハーグ/オランダ) 36th IAHR World Congress
- 2016.7.27-29 (リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.9.19-22 (Stuttgart/ドイツ) 13th International Symposium on River Sedimentation

■禹王サミット in 広島
○日時：2014 年 10 月 18 日 (土) ~ 19 日 (日)
○主催：NPO 法人 佐東地区まちづくり協議会
○場所：広島県国際会議場 (広島県広島市) 他
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1647.html>

■第 15 回東京湾シンポジウム
○日時：2014 年 10 月 24 日 (金) 13:00-17:00
○主催：国土技術政策総合研究所
○場所：横浜赤レンガ倉庫 1 号館 (神奈川県横浜市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1989.html>

■第 183 回 河川文化を語る会-水城の築堤とその時代
○日時：2014 年 10 月 29 日 (水) 14:00-16:00
○主催：公益社団法人日本河川協会
○場所：ホテル・レガロ福岡 (福岡市博多区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1975.html>

■平成 26 年度「河川教育研究交流会」
○日時：2015 年 1 月 31 日 (土) 10:00-17:10
○主催：公益財団法人 河川財団
○場所：東京海洋大学品川キャンパス (東京都港区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1999.html>

書籍等の紹介 Publications

■ 首都水没 (2014.8 発行)

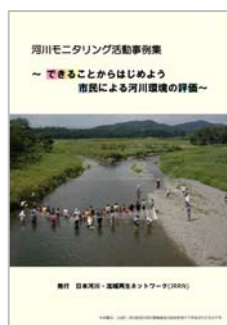
- ・著者：土屋信行
- ・出版社：文藝春秋
- ・価格：760 円 + 税
- ・ISBN-13：978-4166609802
- ・出版年月：2014 年 8 月



JRRN 代表を務める土屋信行の著作「首都水没」が 2014 年 8 月 20 日に発刊されました。水災害と共生して来た先人の知恵を学び、災害文化の醸成とともに、強靱な日本を造り上げていく上でのヒントが濃縮されています。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発行)

- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014 年 3 月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

※本冊子の入手方法

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)
info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご
参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

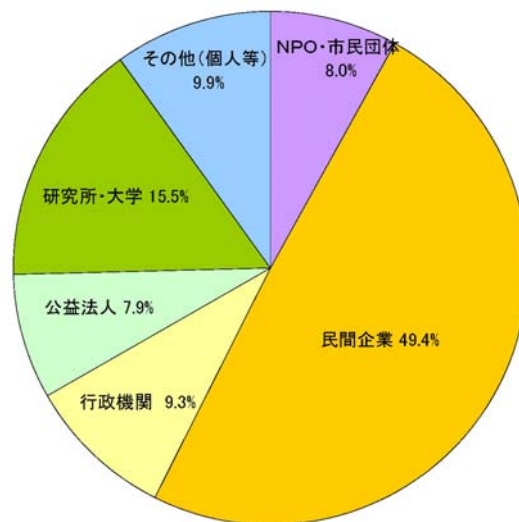
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信され
ます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2014 年 9 月 30 日時点の個人会員構成
(個人会員数：673 名、団体会員数：53 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

